

織物に発生するしわおよびその回復は、着用時と洗濯時とがある。とくに機械洗濯時のしわは、洗濯物の重量、機械的外力、浴の温度、洗濯時間などの作用によって形成され、洗濯物のアイロン仕上、すなわち衣服の取り扱い性能に関係してくる。

本研究はこの中、洗濯機を使用した場合の温度の変化が洗濯時のしわの挙動におよぼす影響について、平織の綿ブロード、エステル混ブロードおよびアセテート、ナイロン、エステルの各塩瀬計5種を試料として実験した。そして洗濯時の水温と攪拌作用のしわにおよぼす影響と脱水時の水温と遠心脱水作用のしわにおよぼす影響を検討した結果、次のような結果を得た。

1. 洗濯時の機械的な攪拌作用は、試料固有のしわ回復能力を除いても、明らかにしわを除去する作用をしている。

2. 各試料とも攪拌時の水温は40°Cの方が25°Cよりもしわの除去の程度が大であって、試料によりその程度は異なる。

3. しわは脱水作用によって形成されるが、綿、アセテートが大きい。

4. 脱水中の洗濯物温度は、しわ形成に大きな作用をおよぼし、その温度降下はしわを作る一つの要因である。